



令和4年10月28日  
令和4年度学校だより NO.35②  
加古川市立平荘小学校

## 日帰りの自然学校を実施しました（5年生）

10月25日（火）と26日（水）に、加古川市立少年自然の家で、5年生が日帰りの自然学校を実施しました。10月26日（水）は、自然学校最終日です。9月14日（水）～9月16日（金）の2泊3日の自然学校と日帰りの自然学校の集大成の日です。

10月26日（水）は、子どもたちの意気込みが違いました。前日のふり返りをもとに、最終日は、一人一人が明確な目的をもって少年自然の家に集合しました。子どもたちは、『話をしっかり聞くこと』を常に意識しながら行動をしていました。それは、子どもたちの姿勢（座って待っている姿）からも感じられました。子どもたちの目線、子どもたちのピンと伸びた背筋、集合した時の列、班長の人数確認や報告の様子等、頑張ろうとしている気持ちがよく伝わってきました。



## 自然学校のプログラムを通じて感じてほしいこと

自然学校では、仲間と協力しないと達成できないことをプログラムに入れました。野外炊さんもボート体験も平荘湖ハイクも……。子どもたちには、「ああ、楽しかった。」という感想だけで終わるのではなく、「楽しい活動ができたのは、～のおかげだな。」と、感じられることを期待しながら計画をしました。自分の活動を支えてくれている存在に気づき、感謝の気持ちをもつことができれば、計画をした甲斐があったなとうれしく思います。

日帰り2日目の開校式では、子どもたちに、『見えないところ（心づかい）を想像する力』をつけてほしいと話しました。感謝の気持ちをもつことができれば、相手をリスペクトできれば、自ずと話は聞けると思います。相手が自分に何を伝えようとしているのかを真剣に受け取ろうとするとします。この心の動きも含めて、自然学校での学びを深められたらいいなと期待しました。

### 2日目 <<ボート体験>>



ボート体験は、班員の心が一つにならないと進みたい方向にボートを進めることができません。子どもたちは、互いに声をかけながら、みんなの力を集結していました。（5年生のみなさん。楽しいボート体験ができたのは、友だちと協力できたからこそですね。友だちに感謝、ボートのメンテナンスをしてくださっている方に感謝、池の管理をしてくださっている方に感謝・・・ですね。）



## 平荘湖ハイクを行いました

自然学校最終日の午後のプログラムは、平荘湖ハイクでした。目標設定時間は80分でした。平荘湖の周りを班員と協力しながらハイキングしました。ポイントでは、それぞれの先生たちから課題が出されます。それをクリアして、前へ前へと進んでいきます。



スタート地点では、『人間知恵の輪』に挑戦しました。班員と知恵を働かせて、一つの輪になるように人間知恵の輪をほどこいていきます。

### 《聴くこと》

音楽会の時に、全校生で、「聞く」と「聴く」の違いを考えたことがありました。

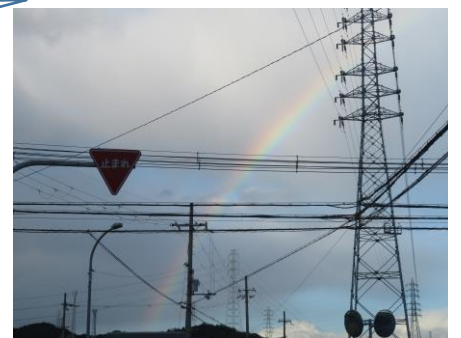
「聞く」にも「聴く」にも、漢字の中には、『耳』の文字が入っていますが、『聴く』の方は、『耳』以外にも『目』『心』『十四』の文字が入っていると、子どもたちが発表してくれました。

「聴く」は、音楽を鑑賞の際にもこの漢字の『聴く』を使います。カウンセリング（傾聴）の際にも、この『聴く』を使います。

自然学校でも、子どもたちの決めた最終日の目標は、「話をしっかり聴くこと」でした。

そのためには、どんなことを意識するとよいのかを5年生と考えてから最終日の活動を開始しました。子どもたちは、「話を聴くときには、話し手（相手）を意識して話を聴くことが大事だ」と話していました。話し手は、聴き手に伝えたいことがあります。その『みえないところ（心）』を想像しながら話を聴くことが大事だということ』に気づきました。耳で聞く、目で見る、（十四の=いっばいの）心で聞くことがポイントだと改めて確認できました。

1日目の帰り道、虹が出ていました。



自然学校を通して、友達のやさしさや協力すること、自然を大切にすること、自立に向けてしっかりと話を聞くこと、そして、何よりも自分を支えてくれている存在に気づき感謝の気持ちを持つこと等、たくさんのことを学べたと思います。この経験をこれからの生活に生かしてほしいと思います。5年生は、2泊3日と2日間の日帰り自然学校をきっかけに大きく成長できたと思います。

スタッフの人から、『話を聴くことの大切さ』や『しんどい時にこそ、その人の力がみえるということ』を教えてくださいました。

